



ちびっこクラブ えがおでこんにちは会



おがさわら

# 議会だより

第 120 号

議案審議	2
一般質問	4
委員会報告	7
議員レポート	12
編集後記	12

# 3月議会 議案審議

## 条例

- 特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例  
おがさわら丸が新船に切り替わることにより料金区分が変更となるため、村長など村特別職が出張する際に支給できる運賃の範囲を改めました。
- 村営バス条例  
バス1日乗車券を、700円から500円に減額しました。
- 母島村民会館指定管理者  
引き続き、小笠原村社会福祉協議会が管理します。

## 予算

- 新年度予算は 10P へ

## 補正予算

- 一般会計補正予算  
決算月が近いので、おもに事業変更などによる、残額を減額補正しています。

## 同意

- 農業委員会委員の任命  
早川保氏、森本かおり氏、藤谷明憲氏、濱崎泰宏氏、小松武人氏、稲垣勇氏、大澤彰氏、辻井麻里子氏
- 教育委員会委員の任命  
鈴木直子氏

## 意見書

- 世界自然遺産の保全管理にかかる全国的な予算枠の拡大を求める意見書  
〈一木重夫議員提出議題〉  
全会一致で可決され、内閣総理大臣、環境大臣、衆参両院議長に送付されました。

3月議会は条例や補正予算だけでなく、4月の新年度予算を決めるとても重要な議会です。本定例会は3月8日から18日の日程で開催されました。

12月から3月までの

## 議長出張報告



### ・陳情先など

東京都副知事、教育長  
国土交通大臣政務官  
防衛副大臣、国土交通大臣  
都議会各派  
国会議員  
平成28年度離島振興関係国家予算対策運動

### ・会議出席

都町村議会議長会定期総会  
島嶼町村議会議長会定期総会  
ほか会議

### ・その他

新おがさわら丸の命名・進水式



# 一般質問

## 3月定例会

第1回定例会は、5名の議員から10件の一般質問がありました。



### 扇浦交流センター太陽光発電、村内施設の節エネについて

**清水議員** 太陽光発電の今後の活用は。予算と電気使用量、また余剰分利用は。蓄電池を積む電気自動車導入の考えは。村のエネルギー協議会開催は。

**副村長** 発電設備が完成すればセンターの日中利用を大半賄い、蓄電して災害避難所利用時に停電でも電力確保が可能となる。事業整備費は総額1142万円、電気使用量は平成26年6065キロワットだ。売電が可能になれば余剰電力は島内家庭の使用に回す。協議会はまだ進んでいない。

**清水議員** 村施設の電気使用量は。その数値は各施設職員は承知か。増減の変動理由は。

**副村長** 平成26年度で診療所37万、クリーンセンター36万、し尿処理場32万、扇浦浄水場21万、地域福祉センター17万、情報センター14万、小笠原村小・中校13万、役場本庁舎と母島小・中校が各12万キロワットで、各施設とも空調や照明の小まめな入り切りなど節電に努めた結果もある。各施設に節電担

当者はいなかった。

**村長** ビジョンは村民生活に支障を来さぬ上で進めていく。

### 野ヤギは駆除できるのか

**清水議員** これまで実施された駆除の事業費や実績、現在の生息数は。利活用の考えは。

**産業観光課長** 24年間の村の事業費は4100万円、駆除頭数は3574頭だが、ほかに東京都事業があり、平成26年度までで4355頭だ。生息数は数百頭と考えるが根絶は容易ではない。属島では駆除の有害な反動も見られ、対応の検討が必要だ。村が事業主体の利活用は考えていない。



清水良一議員

## 安藤重行議員



### 企業未加入で社会保険制度から漏れる高齢者等への対策は

**安藤議員** 村の国民健康保険や国民年金の加入率は。建設産業などで、従業員を個人事業主に見立てて社会保険加入を逃れる事業者もあると聞く。そうした労働者は、高齢になっても社会保険の対象外となり、生活保護に頼らざるを得ない。行政として公共工事発注者として、法遵守のため村はどう取り組むつもりか。

**村民課長** 国民健康保険加入者は1200人、国民年金860人で数は伸びている。他制度の加入者もあり率は出せない。後期高齢者医

療保険は130人でほぼ全加入状態だ。

**財政課長** 社会保険未加入問題は、国交省が平成29年を目標年次に、行政、建設産業の元請や下請企業が一体で取り組むガイドラインを制定した。変更事項や他事例を確認しながら対応を進めたい。請負事業者には、法に従い現場代理人名のほか退職金や災害保険加入書提出等を求めているが全ては確認できていない。目標年次を視野に労基署と役割分担し事業者へ通知していく。

**村長** 村も生活保護増は望まない。発注者としてガイドライン等に従い励行していく。

### 節電への取組みを伺う

**安藤議員** 村有施設に対し現状及び今後の節電の取組みは。

**副村長** 大きな施設の節電は運営方法も絡み短期的対応は難しい。施設更新時などに、省エネルギー化、再生可能エネルギー導入等を念頭に計画を進めていく。事務所などの照明のLEDへの切替えは、更新時期も考慮し段階的に導入を進めていく考えだ。

### 本土との格差について

**一木議員** 小笠原には自衛隊搬送以外の救急搬送、人工透析、出産などの医療格差がある。八丈島では航空路がなければ人工透析はできないと聞いた。センター試験を受験するだけで2泊25日もかかる。医療・教育だけではない、ほかの分野でも航空路があれば、本土との格差がもっと縮まる部分がある。「超遠隔離島だから仕方がない」と、格差が当たり前になっていないか？当然、全てが本土と同じわけにはいかない。ただ、親として、人として守らなければいけないものがある。そこは是正しなければならない。航空路の必要性を村民に限らず全国に広く情報発信すべきではないのか。

**村長** 航空路に関する情報発信のあり方は、国・東京都との協議も踏まえながら適切に対応していく。

原の未来をつくる根幹。そのため、平成30年度の法改正では村議会と十分なやりとり、調整をして、執行部と両輪で効果的に実施すべき。そのための調査は、旧島民の施策、小笠原の特殊事情、硫黄島の歴史に詳しい方に携わって欲しい。

**村長** 法改正には議会と両輪で英知を出さねばならず、よく相談しながら進めたい。どのような方、組織で調査の依頼をするかどうかは、今年度の検証結果によって来年度考えていく。

### 特別措置法の改正・延長について

**一木議員** 特別措置法と暫定措置法は、小笠



## 一木重夫議員

## 杉田一男議員



### 村長所信について

**杉田議員** ①新船の有効利用等、村長の取り組みは。②航空路開設への取り組みを改めて問う。③災害時用の車両・重機置き場確保の現状は。④漁業支援と漁場復興にどう取り組むか。⑤集客対策を検証し、新たな考え方で観光振興に取り組むべき。⑥新船就航の機会にラム酒を売り込み、活用しては。⑦観光客のリピーターを増やす取り組みを。

**村長** ①父島・母島の新成人が支鋼切断をしたことに、私の希望の意図を酌み取っていただきたい。小笠原に来る観光客の可能性が広がり、余裕を持って滞在可能になる。広く広

### 海路アクセスの課題の解決は

**稲垣議員** 村の資源循環型計画で島外搬出は船とリンクするが、老朽化した共勝丸の新造船計画の進捗状況はどうか。冷蔵庫の不具合への対応は。

**副村長** 当村の持続可能な資源循環型社会構築に共勝丸は欠かせない。新造船では先般、地元代理店職員が本社に行った際、建造に向けた準備中との話を受けた。引き続き連絡を密にしていく。冷蔵庫の不具合は直って運用されている。

**稲垣議員** おがさわら丸ドック中の代替船をどう考えるか。

**副村長** 小笠原海運や就航中の東海汽船の船で代替できる船はない。物資の輸送では共勝丸しか代替手段はない。

**村長** もう一隻、貨物船を走らせる案も検証してみたい。

### 外来種駆除にどう取り組むか

**稲垣議員** 固有陸産貝類を害するツヤオオズアリ対策の進捗状況と今後の対応は。

**環境課長** 分布する南崎は環境省等が、北港周辺は東京都が試験駆除を実施し一定の駆除

報する。②議長とともに知事に要望し、思いを受けとめていただいた。腰を据えて議会と取り組む。④国や都への要請などきちんとやるが、明文を整えて考えたい。⑥来客時には大いに飲んでもらい、議会の皆様もご活用願いたい。

**総務課企画政策室長** ②都や航空局の実務担当者との協議・調整をした。今後も努力する。

**副村長** ③用地を確保して協定を結び、重機置き場の提供を進めている。奥村交流センターに用地を確保したほか、候補地を選定して関係課と支庁が検討している。

**産業観光課長** ④平成29年度まで支援金を継続したい。漁場回復の支援継続を国や都に要望する。⑤ゴールデンウィークに産業祭を開催し、観光客の満足度向上を図り、特産品をPRして一次産業の振興に寄与する。⑥ウエルカムドリンクなど、細かな対応が販売促進になる。⑦観光客に満足して帰ってもらうことが重要だ。内地での交流イベントもあわせてやるのが大事だ。

効果も見られたが、エリアごとの検討を必要とし、関係機関と対策を協議中だ。乳房山での早期根絶、南崎での困込み駆除を方針として進める。

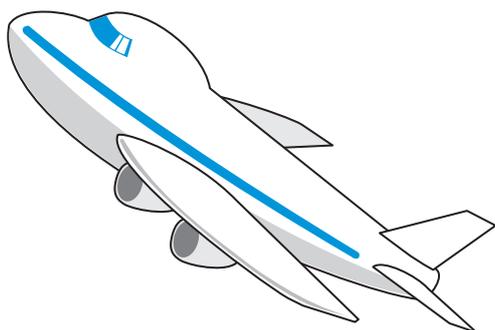
**村長** 中長期的には集落域での対策を協議していきたい。

**稲垣議員** 母島のシロアリの現状と今後の対応については。

**建設水道課長** 蝙蝠谷仮置場周辺で4月に営巣摘出し、今年2月ハスベイ付近で駆除中、長浜トンネル以北で本年度4カ所営巣を駆除した。新たな営巣箇所特定に力を注ぐ。3月の説明会で個人家屋防除の奨励金等も説明し、今後も対策連絡調整会議を開いていく。



## 稲垣勇議員



# 航空路

## 小笠原空港開設推進 特別委員会

一木 重夫 委員長  
清水 良一 副委員長

3月9日開催

- ・陳情先などの報告
- ・東京都議会予算特別委員会で航空路の質問がされた報告。
- ・天草エアラインATR機就航の報告
- ・日本自然保護協会へ対応（池田議長）報告

昨年、洲崎に建設が決まったかのような、誤解されるようなニュース報道があった。

それに伴い、日本自然保護協会が空港は不要ともとれるブログを発信した。一木委員長と共に、日本自然保護協会へ行き、その際日本自然保護協会は、報道に事実と違う点があるなら、ブログの内容も違ってくと理解をしてもらった。

**問** 観光客誘致のために空港が必要なのではなく、民生の安定のために必要。医療や福祉の面など、航空路があることで解決する。私たちは自然環境を守るための調査もしてきている。空港＝観光誘致・自然破壊といった一方的な視点だけで言われるのは、非常に悔しい思いだ。〈池田議長〉

**答** 平成14年から調査を行い、村が考える航空路案をまとめ、都に提出してきた。自然環境への影響が最も少ない案として、誇れる案だ。

# 総務 委員会

一木 重夫 委員長  
清水 良一 副委員長

3月9日開催

## 役職変更

委員長の辞任願が出されたため

旧 佐々木幸美



新委員長 一木重夫

## 航路改善

新おがさわら丸、新ははじま丸就航までの  
日程報告等

**問** 就航前の安全確認航海の時に見ることはできないのか。〈清水副委員長〉

**答** 近くで見られるが、内部は披露会までお待ちいただきたい。

**問** ドック中の代替船の課題を議会としても進めていくつもりだ。執行部の対応も求めたい。〈稲垣委員〉

**答** 大変厳しい現実の中でも、今までのやり方と違った方法を模索することも考えながら議会と相談しながら対処したい。

**問** お披露目はどのようなものになるのか。〈池田議長〉

**答** 小笠原海運からまだ詳細な内容が来ていない。

## 世界自然遺産(継続)

会議や外来種対策などの報告

**問** 殺鼠剤に抵抗のある人も多い。粘着剤での対策は視野に入れているのか。〈清水副委員長〉

**答** 有人島での殺鼠剤使用は課題が多いので、属島とは違う視点で議論する。

**問** 外来種駆除ボランティア事業は、どこまで村が行うのか。〈安藤委員〉



**答** 村ではNPOに委託している部分もあり、効率性も含めて考えたい。

**問** 属島の外来種を根絶するには侵入経路の確定が必要では。

＜杉田委員＞

**答** 侵入経路を想定しつつ、再侵入がないように計画を進めている。

**問** 登録5周年事業は、どのようなものを行うのか。

＜鯉江委員＞

**答** 世界遺産の価値、取組などの広報を主に計画している。

## 地方創生

事業内容の説明報告

**問** 地域環境力の人材育成とあるがどのようなものか。

＜安藤委員＞

**答** 島内の環境意識は非常に高いのだが、底上げを図りたい。

**問** パブリックコメントの広報をもう少し工夫しても良いのでは。

＜清水副委員長＞

**答** パブリックコメントの意見が少ないのは事実。意見がいただけるような工夫を考えたい。

**問** 住宅がなければ、定住促進にも基盤産業の向上もできない。住宅政策は根本に置いて頂きたい。＜池田委員＞

**答** 住宅政策は、総合計画の中で行う。細かい対策は検討しており、出せる時に出したい。

**問** 高齢者を寝たきりにしないための具体的な計画が必要では。

＜安藤委員＞

**答** 総合計画の中で具体的な施策を進めていく。

**問** おがさわら丸の運賃低廉化は、どう取組んでいくのか。＜杉田委員＞

**答** 奄美の交付金制度を参考に、次の特別措置法で交付金制度を盛り込む努力をして行く。

## 外来種対策

環境省の全国的な世界自然遺産管理の予算拡大を求める意見書案を、本会議に上程するよう進めることにしました。

## 硫黄島

硫黄島調査特別委員会

杉田 一男 委員長

安藤 重行 副委員長

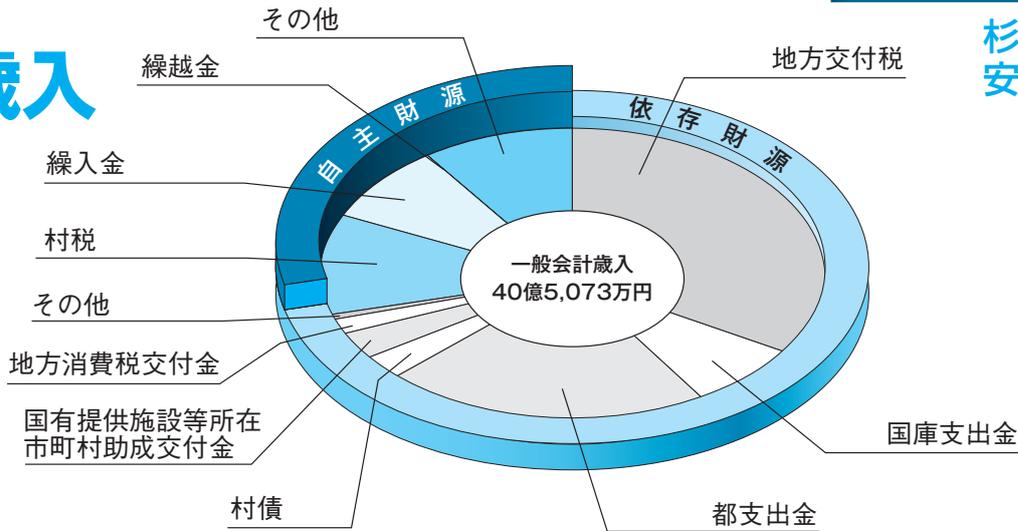
3月9日開催

- ・2月24日 慰霊巡拝事業（国主催）
- ・2月29日 旧島民墓参（都主催）
- ・3月8日 硫黄島連絡調整会議
- ・3月19日 日米合同慰霊祭

ほか、硫黄島での訓練や遺骨収容事業について報告がありました。

杉田 一男 委員長  
安藤 重行 副委員長

## 歳入



### ○ 歳 入 ○

**問** 国の防衛や硫黄島の交付金は、いつまでも続くものではない。だがその交付金は、介護などの継続事業に使っている。継続事業には、継続財源を充てる必要があるのではないか。 <一木委員>

**答** 土地にかかる交付金が主なので、すぐに無くなるとは考えにくいですが、他の町村の動きにあわせ減額される可能性もあり、危機感は持って行かなくてははいけません。

### ○ 歳 出 ○

**問** 新年度に定数減をしている課がある。福祉などの人員を減らして今後、重要な業務が行えるのか。 <安藤副委員長>

**答** 担当課からは増員要請を受けているが仕事量と人員については各課に工夫してもらいたい。適正な配置を今後もしていく。

**問** 防災訓練は、近地地震の津波も想定すべき。 <一木委員>

**答** 島内の関係団体は異動が多いので、確認の意味も含めて遠地地震の訓練は続けていきたい。

**問** 28年度の返還50周年事業は、どういうことを行うのか。 <稲垣委員>

**答** 記念誌作成に必要な資料収集などを行っていく。具体的な事業は29年度以降になる見込みだ。

**問** 村営バスに高齢者のための割引はあるのか。 <安藤副委員長>

**答** 70歳以上の方は、2,000円で1年間有効の特殊乗車券がある。

**問** 小型の村営バスが走行しているが、どう好転しているのか。 <清水委員>

**答** 来客数の少ない時間帯に走行することにより、燃料費の減額ができた。今後も経費削減に努めていきたい。

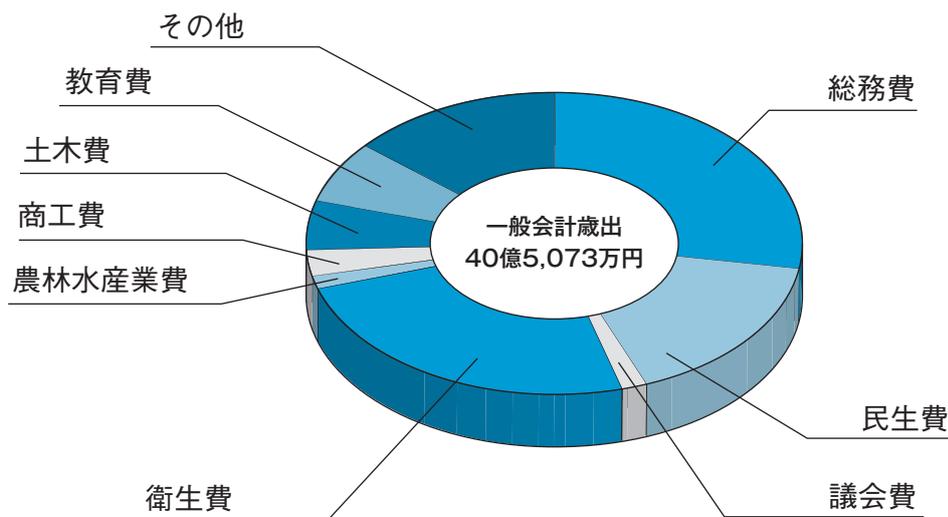
**問** 父島診療所の医療用ベッドを有料老人ホームの介護用ベッドにできないか。 <安藤副委員長>

**答** 感染症予防、スタッフの動線などを考えると難しい。

# 予算特別委員会

3月16、17日開催

## 歳出



**問** 父島保育園で待機児童が発生したが、その後は。 <一木委員>

**答** 28年度は入園をご遠慮いただく児童はいないとみている。

**問** 母島出張所管理地の蝙蝠谷地区のシロアリ対策はその後どうなっているのか。 <稲垣委員>

**答** 平成26年にシロアリ侵入が確認されてから、これまでも対策を行っている。今後も母島出張所が撲滅すべく対策を行う。

**問** 旧大根山墓地の崩壊が進んでいるように見える。村営墓地に斡旋するよう、広報をしてみてもどうか。 <安藤副委員長>

**答** 村民の大根山墓地の認識度は非常に高いと考えているが、広報については工夫をしてみたい。

**問** 更新する母島生ごみ処理機は、堆肥は使えるのか。 <稲垣委員>

**答** 生ゴミを土に還す完全消滅型で、堆肥は発生しない。

**問** 扇浦分譲地の道路にひび割れがあり、斜面は30度を超える場所があ

る。土砂崩れの恐れがあるので早急に調査すべき。 <一木委員>

**答** 調査をして報告をする。

**問** 観光協会が法人化されるとのことだが、事務局長不在のままなのか。 <安藤副委員長>

**答** 司法書士等の確認をしながら、4月1日法人化に向けて進めている。その中で、事務局長不在については言及されていない。

**問** 教育委員会所管の貴重な資料を高台にあげてはと、提案してきたが、今年度はどうなっているのか。 <一木委員>

**答** まずは電子化をすすめ、それから保管場所の移動を考えている。完了次第、補正予算で対応できればと考えている。

**問** 決算特別委員会の際に、島野菜やフルーツを補食給食に使えないかと提案したが、その後は。 <清水委員>

**答** 生のものを提供するの難しい。試験的に島の加工品を使ったパンなどを利用した。

昭和63年、小笠原村は八丈町と友好都市提携を結びました。小笠原村議会では4年に一度の改選後に八丈島を訪れて、行政視察と議員同士の交流をしています。今回は今年2月に訪問した八丈町立病院の行政視察をレポートします。

人工透析を実施していない小笠原村では、人工透析が必要になると内地に引き揚げなければならない、人工透析ができるようにしてほしいという要望が以前からあります。そのため、八丈町立病院で平成9年から実施している人工透析の現場を視察させて頂き、詳しいお話を伺いました。

私は人工透析の立ち上げから携わっている看護師に尋ねました。

「もし八丈島に航空路がなかったら、人工透析を実現できていましたか？」

看護師は即答しました。

「非常に難しい」

人工透析に必要な物資の輸送、専門医の

確保、機械のメンテナンス、透析患者の本土への移動等で航空路が必須とのこと。そのため、八丈島の人工透析患者18名は、航空路がなければ島では暮らすことができません。また、人工透析の機器やメンテナンスに多額の予算がかかる訳ではないことも、今回の視察で分かりました。

航空路が実現すれば小笠原村の様々な課題が改善できる可能性があります。人工透析はその一つ。今回の行政視察で、航空路を早期に実現しなければならないとの想いをより強くしました。



編集後記

本定例会で「世界自然遺産の保全管理にかかる全国的な予算枠の拡大を求める意見書」が全会一致で採択されました。この意見書は直ちに内閣総理大臣、環境大臣等に送付されました。

一昨年、外来種対策の陳情活動で議員全員が環境省を訪れた際、全国の国立公園の予算のうち3割を小笠原が占めており、これ以上増やすことは困難とのお話を聞きました。しかし、小笠原諸島の外来種対策は待ったなし。そこで、村議会の総務委員会で話し合いをした結果、「環境省の全国的な予算枠の拡大を国に求めることにしよう」という結論になりました。

小笠原村議会では世界自然遺産を有する全国の7町村議会に対し、同様の意見書を国に提出するよう働きかけました。また、今年5月に議員全員で上京の際に丸川珠代環境大臣に直接意見書を手渡して要望する予定です。

★（議会だより編集委員

一木重夫 安藤重行）★

（一木）